

益城の文化財 (28)

トンの屋敷の板碑 (安永)

益城町には、戦前まで中世期頃に造立された貴重な石造物が無数にあったといわれています。しかし戦後の乱開発や造園ブーム等により多くの石造物が町外に散逸・消滅しており、それらの文化的価値を考えると非常に残念でなりません。今回は、益城町に残る石造物の中で、板碑（板石の上部を山の形に切り、仏像や文字を彫った供養碑）の紹介をします。

現在『益城町史』には、43基の板碑の存在が記録されています。その中のひとつが安永に所在する通称「トンの屋敷」にある板碑です。大正6年発行の『郷土誌』では、「安永三郎の墓、安永氏は安永の祖先である」と記録されています。また、昭和63年発行の『益城町文化財調査報告第13集馬水寺、禅王寺跡等周辺調査概要』には、中央上部に円文と種子「キリク」（阿弥陀如来を表す梵字）一文字が判読できたと報告されています。

この板碑と岩崎氏屋敷にある五輪塔と関連付けてみると、岩崎氏五輪塔の地輪には「当国六ヶ庄上安永地頭沙弥是円存主之時奉造五輪也毎日所作奉摺写弥陀薬師観音合一万二千九百九十五躰永仁五（1297）年三月彼岸」とあり、上安永（現安永）の地頭是円の信仰心と財力を読み取ることが



「トンの屋敷」の板碑

できます。「トンの屋敷」の「トン」とは安永一族のことを指し、そこを取り巻くように「奥の寺」・「道成寺」が所在していたと『郷土誌広崎』に記録されています。この付近には現在も「霧島さん」・「薬師堂」・「三王社」・「金松社」・「妙見社」・「観音堂」があり、地域の方々の信仰心を集めています。

板碑は道路拡張時に現在の地に移されましたが、板碑の下には「栗石」が敷き詰めてあったそうです。



岩崎氏屋敷の五輪塔実測図

益城町文化財保護委員会

空の玄関口

益城町



広報ましき

2008. 7月号 No. 382

発行／益城町

編集／秘書広報課

〒861-2295

熊本県上益城郡益城町宮園702

TEL 096-286-3111

FAX 096-286-4523

<http://www.town.mashiki.kumamoto.jp/>

<携帯サイト>

<http://www.town.mashiki.kumamoto.jp/mobile/>

印刷／櫛田野印刷所

本紙は再生紙を使用しています



ましき菖蒲園

福田地区排水処理施設の隣にある「ましき菖蒲園」の3万株の花菖蒲が、今年も美しく、見事に咲きました。